

## 指導のポイント

### ○身近になる金融

IT（情報技術）の進展、国際化、規制緩和や制度改革などに伴う社会構造の変動の中で、人々の金融・消費生活は急速に変化している。例えば、電子マネー・電子決済が普及し、現金を使わずに洋服を買い、インターネットを通じて旅行保険を申し込み、住宅ローンを組み、株式を運用する。おサイフケータイで銀行口座の残高を確認し振り込み、コンビニエンスストアのATMで預貯金を下ろし株式を発注する。このように、情報社会の進展によって、金融サービスはいつでもどこでも利用でき、敷居の高いものでなくなり、また人々の生活に知らぬ間に入り込んでいる時代となった。一方、情報社会の進展は、人々のライフスタイルの多様化、販売方法の多様化に拍車をかけ、契約や金融サービスに関する新たな消費者問題を生み出し、複雑化、多様化している。

そこで、現代社会での「お金とは何か」ということを理解した上で、金融を捉えていく。携帯電話やインターネット、コンビニエンスストアを始めとする流通店舗での電子マネー・電子決済や、利用が急増しているポイントやマイレージといった企業間での提携によって交換可能な「企業通貨」などについて仕組みを調べ、クレジットカードの支払いをも含めた「見えないお金」への理解を深めていく。

また、金融商品は、IT化によって、誰もが気軽にアクセスできるようになり、身近な商品となりつつある。一方、人々のニーズに応じて、付加価値のある金融商品が開発され、多様化・複雑化している。このような金融を学校教育において学ぶことは、「お金を運用する」ことと併せて「金融リテラシー」を学ぶ機会として位置付けて展開することが重要である。

### ○教師の支援

ITの進展により、おサイフケータイやパソコンなどのハードも利用できるソフトも、両面とも飛躍的に進化し続けている。ドッグイヤーの速さで変化する現代社会に晒されながら高校生は生活し、卒業後は市場経済の中に飛び出すこととなる。一方、教師も同じようにその激変する社会の中で生活しているため、変化や最新の情報・技術をすべて把握することは困難なことである。教師が最新の知識を教えるのではなく、生徒をリアルタイムの社会へ導き、新たな視点から社会や生活を捉え、課題を見だし、見直していくことや実践的に体験させることに意義がある。本実践例は、高校生にとって身近な携帯電話やコンビニエンスストアを入り口として、金融や消費生活に対して、多様な視点からの気付きを促し、自らがどのようにかわり、考え生きていくかということを学ぶことがねらいである。それゆえ、教師は大枠を示し、生徒の学習を支援することが重要となってくる。